

# その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.119

田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。『文藝』（河出書房新社）2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】http://www.nippon-dream.com/

## 「自治の奪還」に向け現実路線を歩む ダライ・ラマの戦略・戦術とは

### 今週の逸品



### あさりのピリ辛炒め 880円

韓流料理店が林立する赤坂2丁目のみすじ通り手前に位置する四川料理の天府は一見、駅前の中韓料理店の雰囲気と異なる。村山富市、野中広務、加藤紘一といった親中派の各氏が訪れた足跡を感じ取り、本誌巻頭

書担当の長友・勝谷誠彦氏等は食事前から血糖値が激増やも知れぬ。が、料理は廉価で美味。前菜は全品280円。浅瀬のピリ辛炒めは絶品。同じく880円のイカ足の麻辣炒めも秀逸。嫌中派も興奮・満足疑いなし。

【天府】東京都港区赤坂2-13-13 ☎03-3589-1611  
営業11:30~15:00、17:00~23:30 無休

illustration by Hajime Anzai



確かに、中国や韓国は「困ったチャン」な存在。別けても朴槿恵大統領の高言・抗言振りは、女性に対して「博愛ペログリ主義」を掲げてきた僕とて、首を傾げざるを得ません。然りとて、弁証法を抱き得ぬ相手と同じ「感情的土俵」に上がって論駁した所で詮方無し。懐かしき麦酒広告の惹句を援用すれば、「大人は黙って『静観』するに如くは無しです。

中国に至っては、悔しい哉、今やアメリカの国別輸出入額で日本を遙かに凌駕しています。媚中派が日本の経済界を徘徊と慨嘆する向きは、「儲けてナンボ」が信条の経済人は洋の東西を問わず存在し、アメリカとて例外ではない、と冷徹に捉えるべきです。

「アモイ航空が100機目のボーイング機を導入」と「サンケイビズ」が報じています。1984年に中国民用航空局と福建省、廈門市の共同出資で設立された廈門航空は、現在は広東省広州市に本拠地を置く中国南方航空の傘下で、国内218路線、国際・地域26路線を、平均機齢5・08年と世界

的にも若い機体で運航中。それらは全てボーイング社製。2020年には保有機体数が200機を超える計画です。

因みに中国南方航空グループの定期便旅客数は年間8千万人強と世界第4位。ボーイング社は今後20年間で中国が商用ボーイング機を投資額8千億ドルで5580機購入すると予測しています。それは全世界の航空機需要の16%を占める数値なのです。

閑話休題。チベット仏教の最高指導者で御年78歳のダライ・ラマ

14世は今回の来日直前、亡命先のインド・ニューデリーでの共同通信との会見で、「習近平国家主席は現実的な思考の持ち主のようだ」と以下の認識を示しました。

「我々は独立を求めている。経済発展する中国に残る事がチベットの利益になる。中国はチベットの言語や文化の保護を認めるべきだ。」「中国人の知識人層や元官僚等は私の穏健路線「中道のアプローチ」を支持し始めている。」

その上で「チベット人に高度の自治を認める可能性について（習主席が）語るには時期尚早のようだ」と付け加えたのです。

習近平・李克強ラインが失墜すれば江沢民に象徴される軍産複合の既得権益集団が跳梁し、その無体に対してチベット・新疆ウイグルのみならず漢族全体も蜂起し、中国の政治も経済も混沌状態に陥る。それは不幸以外の何物でもなく、故に現実的な思考の持ち主の私は中国指導部の中で同様の気概を抱く面々と「自治の奪還」に向けてユニテッド・インディヴィジュアルズするのだと。

彼を尊崇する日本の「感情的土俵」の面々には理解し難き妥協と映るかも知れません。が、これこそはホワイトハウスとも綿密に連携した上での今後10年近い戦略・戦術に他ならぬ、と僕は「天府」の逸品・浅瀬のピリ辛炒めで脳髓を刺激しながら得心しています。